

みなさん、こんにちは。1月最後の「博物館だより」です。

## ● 中島由夫さんのギャラリートーク

1月30日に行われたギャラリートーク。今回は出品作家である中島由夫さん、島田誠さん、そして担当学芸員の3人がお客様達のお相手。

ロビーで始まり、島田誠さんが日章旗の横に掲げられている中島由夫さんの旗の話題から話し始めると、冒頭から中島さんは脱線・・・「もう一枚あるの！出してきて！」。その旗をお客様に見せたものの、その場に旗を置いて、次へ移動。(あとで職員がそっと片付けておきました)

1階特別展示室には、主に十代の作品が並び、「その時は良いかどうか分からなくて描いたけど、今は懐かしくてイイね！これ(作品「ポートレート」)気持ち悪いねー！でも、少年時代のはイイのね！」と中島さん。こどもの様な無邪気さは、パフォーマンス中だけでなく、いつも気取らない人柄についていつい大作家だということを忘れてしまいます。一方で、太陽の画家と呼ばれるようになってからの作品解説では、「太陽の作品を持ってきたら、それだけで売れちゃうの。だから嫌で、それを打ち破るのに10年かかった」と、北欧で得た強烈な太陽のイメージを表現しつつも、自らを限定せず、常に挑戦し続ける画家魂を自ら語って下さいました。

当館での展覧は、残り約1週間。この後、名古屋で個展をされる予定がありますが、前半生の作品群を俯瞰できる今回の展示にぜひ、足をお運びください！



1階正面の作品「燃えるランドスケープ」の前で



階段には  
アイロン台を材料  
にした作品



太陽を描きこんだ  
作品の前で

スウェーデンの寒さは厳しく、冬の間は日本に帰国して活動されているという中島由夫さん。先日、名古屋の個展のDMをサイン入りいただきました。そのお礼代わりに、ちょっと宣伝。2月18日～24日まで丸栄という百貨店の美術画廊で開催されるそうですよ。